

# 小川ひさし市議会レポート

2月4日に開会した2月定例会では予算委員会理事として議案質疑に登壇し地域課題や医療、福祉問題について質疑・要望を行いました。



若くしてがんを患った人を支援する課題の一つに在宅での療養をしやすいとすることがあります。北区内の大宮別所小学校、宮原中学校で「いのちの大切さ」をテーマに講演された大谷貴子氏（日本骨髄バンク評議員）より、「さいたま市に若年者在宅ターミナ

## 在宅医療の公的制度が不足 若年がん患者の 支援制度の創設を！

ルケア支援助成制度の創設に取組んで頂けないか。」との要望を頂きました。

ご家族を難治性がんで亡くされ在宅療養の大切さを実感されたことから切実なご要望を受け、2月定例会保健福祉委員会において「さいたま市若年者在宅ターミナルケア支援助成制度」の創設を提案しました。

**小川**

さいたま市のがんによる死亡者数は？

**保健部長**

平成29年度2952人のうち、20歳未満5人、20歳～40歳未満24人、40歳以上2923人

がん患者の在宅医療について

（2面の大谷貴子氏の  
体験談を紹介）

がん患者の在宅療養について市の認識は？

**保健部長**

最後の終末を住み慣れた環境で療養しながら残された時間を家族と一緒に過ごし安心して自分らしい余生を送ることができるとの認識している。

**小川**

しかし、若年性（20歳～40歳）は、小児慢性特定疾患等の医療給付制度や40歳以上の介護保険制度の対象とならないため、高額な費用が必要となる。どの程度の費用が必要となるか？

**保健部長**

福祉用具のレンタル料、訪問介護など毎月約14万円の費用負担が必要となる。

# さいたま市も制度創設を検討!

小川

横浜市では、「若年者在宅ターミナルケア支援助成制度」により1か月5万4千円を上限にサービスマテリアルの9割を助成している。

人がん患者の在宅療養を支援する必要があるのではないか?

**保健部長**

さいたま市においても、令和3年度の制度創設に向けて検討する。



2020年3月4日  
朝日新聞

## 若年がん患者の支援

## 在宅医療の公的制度が不足



日本骨髄バンク評議員  
おの たかこ

大谷 貴子

私は33年前に白血病になり、骨髄移植を受けた。当時、骨髄バンクはなく、私も設立運動に参画し、以来、多くの白血病患者と家族の相談に乗ってきた。ただ、20〜30代の患者が在宅で治療を受けるための公的支援制度の不足についてはよく知らなかった。白血病ではないが難治性がんのために先日、32歳だった姪を私は亡くした。その経験を通し、支援制度の重要性を痛感した。

姪には夫と4歳の双子の娘がいた。医師から厳しい見通しの説明があったとき、姪の母親は「ずっとそ

ばに居て、どんな助けもしたい。最後に私がみとりたい」と言った。「家で過ごしながら治療も受けたい」という姪の希望をかなえるため、私たちは費用や制度を調べた。せき込みがひどく、ベッドを起した状態でしか眠れないので、電動の介護用のベッドが必要だった。すぐに思い浮かんだのは介護保険だが、保険料の納付対象でない40歳未満はサービスマテリアルも受けられないという。あきらめかけたが、姪の住む横浜市には「若年者の在宅ターミナルケア支援助成」という制度があり、

ベッドやポータブルトイレ、床ずれ防止の体位交換機などの用具を1割負担で借りることができた。この制度は、できるだけ家で過ごそうという決断の背中を押してくれた。発熱や腰の痛み、貧血などの在宅緩和ケアには、医師の往診で対処してもらった。いつでも相談でき、駆けつけてくれる医療支援があることも、大きな安心材料だった。

何より大きかったのは、娘たちへの影響だ。姪は痛みを緩和してもらったおかげで、2カ月半を家族と笑顔で過ごすことができた。ドイツニールランド、買い物、外食に行き、幼稚園のお弁当を作った。亡くなる1カ月前にはキーキも手作りし、クリスマスを楽しんだ。娘たちと川の字で寝ることもできた。いよいよ眠る時間が長くなると、2階にお風呂を

組み立ててもらい、3人の専門スタッフの介助で入浴した。娘2人もかきがいく足洗っていた。

最後の日。姪は母親の呼びかけに応じて目をしっかりと開くと、近くに来た娘たちを見つめ、静かに目を閉じた。葬儀の翌朝、娘の一人が「ママが立って笑っていた夢をみた」とにこやかに言った。「つらいママ」ではなく「笑っているママ」の記憶が残ったのだと思う。

もちろん、公的支援があっても自宅で過ごせる人はかりではないし、病院を望む人もいる。しかし、選択肢を増やしてくれるのは間違いない。20〜39歳の人を対象とした終末期の在宅支援制度はまだ限られた自治体にしかない。AYA（思春期や若年）世代のがん患者への様々な支援が広がってほしいと願う。



## 小川ひさし さいたま市議会議員 (立憲民主党) プロフィール

1964年大阪市生まれ。1982年高校卒業後、漫才師西川きよし内弟子入門。4年6か月の修行後、吉本うめだ花月で「西川ひさし」として漫才師デビュー。1987年参議院議員に当選した師匠とともに政治の世界に。大阪から埼玉県へ。漫才師そして政治家西川きよしのもて 22年間修行。2011年さいたま市議会議員初当選。2019年4月3日期目当選。

2014年第9回マニフェスト大賞特別賞受賞 (漫才市政報告)

発行 さいたま市議会議員 小川ひさし事務所 TEL048-669-7270 info@ogawa-hisashi.jp  
〒331-0813 さいたま市北区植竹町1-719-9-102 FAX048-669-7271 小川ひさし 検索

